

京のアジェンダ 21 フォーラム

平成 18 年（2006 年）度総会議案

日時：平成 18 年 6 月 27 日（火）18:30～19:20

場所：ウィングス京都 2 階 セミナー室 A、セミナー室 B

第 1 号議案	平成 17 年度事業報告について	1
第 2 号議案	平成 17 年度決算報告について	5
第 3 号議案	平成 18 年度活動方針及び事業計画案について	1 3
第 4 号議案	平成 18 年度予算案について	1 7

京のアジェンダ 21 フォーラム

京（みやこ）のアジェンダ21フォーラム

第1号議案 2005年（平成17年）度事業報告（案）

1 事業報告

(1)「京のアジェンダ21フォーラム戦略検討委員会」の設置

幹事会直属のプロジェクトチームとして「京のアジェンダ21フォーラム戦略検討委員会」が設置・開催されました。

京都議定書の発効、京都市地球温暖化対策条例の施行などにもなう新たな動きや内外の変化を受けて、フォーラムの目的、組織、活動および運営に関わる全ての分野を対象に、半年間協議・検討を行い、2006年3月の幹事会・常任幹事会合同会議に報告書が提出されました。



（戦略検討委員会）



（京都エコツアー2006早春編）

(3)WG活動

ア ライフスタイルWG

活動を休止し、戦略検討委員会におけるWG再編についての議論の中で、行うべき活動、メンバー等について検討されました。

イ 企業活動WG・KES認証事業部

- ・KES認証事業を推進し、2005年度はステップ1が110事業所、ステップ2が99事業所、計209事業所を新たに認証しました。2006年3月末までの認証登録数は630件、他機関での認証を含めると全国で1012件となりました。
- ・「京都環境賞」の企業への応募の呼びかけ、事前選考、賞金の提供等、京都市主催の京都環境賞の表彰に協力しました。
- ・京都商工会議所、(社)京都工業会、京都府、京都市主催「地球温暖化対策のための中小企業環境マネジメント推進事業」の一環として、中小企業向けの環境マネジメントシステム認証取得推進セミナーを共催しました。
- ・KESのPRパンフレットを作成し、書店にも置いてもらいました。



（KES PRパンフレット）

(2)京都議定書発効1周年記念事業

ア 環境先進自治体会議 分科会の主催ならびに協力

・セッション4「循環型のまちづくり～脱・使い捨て宣言～」

イベント等における使い捨て容器からリユース（洗って使いまわせる）容器への転換について、サッカー場での事例、横浜市のごみ減量への取組、そしてフォーラムえこまつりワーキンググループ（以下「WG」という）でのお祭やイベントにおけるリユース容器使用の取組などを報告し、これからこうした取組が広がっていくために求められることや課題などが話し合われました。

・その他、セッション2「企業の環境経営戦略」ならびにセッション3「地域住民協働のまちづくり戦略」に協力しました。

イ 関連行事「京都エコツアー2006早春編」を実施

太陽光発電のある施設や、リユース瓶を使用している店舗といったエコスポットや、京都の観光名所等を自転車と公共交通機関で巡る企画を実施し、ガイド、ゲストを合わせ28人の参加がありました。

ウ エコツーリズムWG

- ・ 旅館ホテルの環境問題への取組の様子、これまでのWGの活動、国内外の事例を紹介するWebサイトを作成しました。
(URL <http://kankyo.cc/ecotu.php>)
- ・ 宿泊施設の従業員を対象に、環境問題への取組を応援するセミナーを開催しました。
- ・ 京エコロジーセンターと協働し、エコツーリズムの考えを市民に広めるためのシンポジウム、エコツアー、企画展示を行いました。
- ・ 学校の先生や修学旅行生にアンケート調査を行った他、京エコロジーセンターの修学旅行生のためのページの作成に協力しました。



(エコツアー「伏見エコ宝さがし講座」)

エ 環境にやさしい交通体系の創出WG

- ・ 自転車利用の可能性と、利用しやすい社会実現のための条件を考える「1万人の京都自転車散歩」の実施主体に参加し、企画・実施を行いました。
- ・ 交通に関わる情報の共有等を目指し、フォーラムのホームページ内に掲示板「京の交通交流ひろば」を設置しました。
(URL <http://homepage3.nifty.com/kyotocitybus/trans.htm>)
- ・ 東山交通社会実験や、嵐山等観光地交通対策に参画・協力しました。
- ・ 「醍醐コミュニティバス」の利用促進支援を行いました。
- ・ 洛水高校の“自転車を活かすまちづくり”を中心テーマとした総合学習に講師派遣、調査協力等を行いました。
- ・ 次世代の公共交通機関の導入に向けて、「(京)次世代都市交通導入フォーラム」を(株)モチベートと共催しました。



(「1万人の京都自転車散歩」で配布した自転車マップ。(財)京都オムロン地域協力基金から助成をいただいて作成)

オ エコミュージアムWG

- ・ 大原野森林公園のWEBサイトの企画・作成を行いました。
- ・ 大原野森林公園の案内用パンフレットの企画・作成を行いました。
- ・ 大原野森林公園の案内人の日誌などの記録システムの検討を行いました。
- ・ 2004年度、特定非営利活動法人森林再生支援センターが経済産業省のバイオマス等未活用エネルギー事業調査補助事業で行った『多様な主体の協働による汎用性の高い小型ガス化システム導入事業化調査』の成果報告を行いました。
- ・ 日本エコミュージアム研究会において取組発表をしました。



(大原野森林公園自然観察ガイドマップ。(財)京都オムロン地域協力基金から助成をいただいて作成)

カ 食の循環WG

- ・ 「生ごみ循環は地域コミュニティでどこまで進んだか?！」= 食の循環ワーキンググループ活動報告書 = をまとめ、総会等で配布しました。

キ えこまつりWG

- ・ 京エコロジーセンター社会実験支援事業として、リターナブル(リユース)容器システム啓発のための容器貸出の運営方法の検討を行いました。
- ・ 「まつり」をテーマとした他団体との交流、京都での活動の報告を目的に、地球・人間環境フォーラムと共催で「第3回全国リユース食器フォーラム」を開催しました。
- ・ 全国のお祭りやイベントにおける環境対策とその効果、行政等による支援形態に関する調査を行いました。



(第3回全国リユース食器フォーラム)

ク 自然エネルギーWG

- ・ 企業と連携した自然エネルギー普及のシステムづくりを目指して、企業を訪問し、ヒアリング調査、及び当WGの活動紹介を行いました。また、「企業と市民で広げる自然エネルギー」見学会・講演会を開催しました。
- ・ 京都市に対し、「環境エネルギー相談所」の創設等、京都市における自然エネルギー普及に関する政策提案を行いました。



(「企業と市民で広げる自然エネルギー」見学会・講演会)

(4) 広報・コミュニケーション

ア ホームページを整備・運用

トップページをリニューアルするとともに、京のアジェンダ21の内容やフォーラムの活動予定等の

情報を発信するホームページの整備を進めました。
(URL: <http://ma21f.web.infoseek.co.jp/>)

KES認証事業部のホームページもリニューアルしました。

(URL: <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kesma21f/>)

イ ニュースレター「あじえんだ」を発行

フォーラムの活動方針、活動報告や他地域の事例等を掲載している機関誌「あじえんだ」(季刊)第23号、第24号を発行し、会員に送付するとともに、区役所等に設置するなど広く市民に配布しました。
(各3,500部~4,000部)

ウ 事務局通信「月刊あじえんだ」を発行

フォーラムの活動予定や会員の行事案内等を掲載している事務局通信「月刊あじえんだ」を毎月発行し、会員に送付しました。(約500部)

また、「あじえんだ」や「月刊あじえんだ」に同封して、会員の行事案内等を送付しました。

エ イベント情報の発行

フォーラム、京エコロジーセンター、京都市ごみ減量推進会議との三者連携により、フォーラム会員主催等のイベント情報を掲載した『京都環境イベントカレンダー』を毎月発行し、会員に送付しました。

オ メールニュース・メーリングリストを運用・整備

広く会員以外の方にも情報を伝えるメールニュース「週刊あじえんだ」を発行し、ホームページからも登録できるようにしました。(23号発行)

また、WGごとのメーリングリストの運用を行いました。

カ 平成16年度事業報告書を作成

平成16年度の活動状況等をまとめた報告書を作成し、配布しました。(ホームページにも掲載)

キ キャンペーンの実施

「サクラをたずねて鴨川を歩こう 地球環境Doblog歳時記」において、ブログ(日記風簡易型ホームページ)を活用した温暖化防止啓発活動を行いました(共催:(株)NTTデータ経営研究所、(株)NTTデータ)。

(5) 共催・後援・交流

ア 共催事業

- ・ 京都議定書発効1周年記念行事(前掲)
- ・ 「(京)次世代都市交通導入フォーラム」(前掲)
- ・ 「サクラをたずねて鴨川を歩こう 地球環境Doblog歳時記」(前掲)

イ 交流事業

- ・ 総会第3部において、各WGから、事業報告や事業計画の紹介を行いました。また食の循環WGメンバーがハーブティー・お菓子の提供を行い、会員間の交流を深めました。
- ・ フォーラムに関わる学生・院生の合同研究発表会、及び軽食付きの交流会を開催しました。



(学生・院生の合同研究発表会)

ウ その他の連携事業・出展など

- ・ 京都議定書発効1周年記念行事(前掲)等のイベントでパネル展示を行いました。また、京エコロジーセンターの2階展示コーナーで、えこまつりWGのリターナブルシステムの展示を行ったほか、京エコロジーセンター主催のエコリズムに関するパネル展示に協力しました。

- ・ 後援事業 13件・協力出展等 6件
- ・ 委員就任 8件・講師派遣 2件

2 会議の開催

開催実績

- ・ 総会(6月25日)
- ・ 幹事会(6回)
- ・ 常任幹事会(5回)
- ・ プロジェクトチーム会議(9回)
- ・ コーディネーター会議(1回)
- ・ WG等の会議を随時開催しました。

3 会員

- ・ 平成18年3月末日現在の会員数

個人会員	285
団体会員	254
合計	539

4 事務局

(1)組織の整備・強化等

- ・ 事務局チーフコーディネーター1名、事務局コーディネーター2名、KES認証事業部は事務局長1名、常勤スタッフ4名の体制。

(2)他機関との連携業務

他機関が開催する以下の会議に委員として参画しました。(委員名)

- ・ 京エコロジーセンター事業運営委員会(幹事長 小幡範雄)
- ・ 京都省エネラベル協議会運営委員会(事務局 滋野浩毅)
- ・ 京都府地球温暖化防止活動推進センター運営委員会(事務局 滋野浩毅)
- ・ 京都府地球温暖化対策プラン検討会議(事務局 竹村光世)
- ・ 京都グリーン購入ネットワーク(KES認証事業部副事業部長 荒川佳夫)
- ・ 歩いて暮らせる街づくり推進会議(環境にやさしい交通体系の創出WG 恩地惇)
- ・ 嵐山交通対策研究会(環境にやさしい交通体系の創出WG 渡辺洋)
- ・ 東山交通対策研究会(環境にやさしい交通体系の創出WG 恩地惇)

またオブザーバーとして、醍醐コミュニティバス市民の会(醍醐地域の自治町内会及び地域女性会他で構成)の運行管理委員会に参加しました(事務局 滋野浩毅 井上学)。

(3)所在地

○ 事務局

〒604-8571

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488
京都市環境局地球環境政策部地球温暖化対策課内

TEL: 075-222-4037

FAX: 075-222-4039

○ 事務所

〒612-0031

京都市伏見区深草池ノ内町13

京エコロジーセンター内

TEL: 075-647-3535

FAX: 075-647-3536

E-mail: ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL: <http://ma21f.web.infoseek.co.jp/>

○ KES認証事業部

〒615-0801

京都市右京区西京極豆田町2

京都工業会館内

TEL/FAX: 075-323-6686

E-mail: kesma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kesma21f/>

第2号議案 平成17年度決算報告について

監 査 報 告

京のアジェンダ21フォーラム

代 表 内 藤 正 明 様

平成17年度（平成17年4月1日～平成18年3月31日）の事業及び会計についての監査の結果、適正に執行されていたので報告します。

以 上

平成18年 6月14日

監

事

原 強

印

監

事

幸前 清孝

印

平成17年度収支決算報告書(案)

[一般会計]

収支計算書

	大 科 目	中 科 目	予算額(C)	決算額(D)	差額(D - C)
収 入	会 費 収 入	企 画 ・ 催 事 物 品 販 売	500,000	758,000	258,000
	事 業 収 入		64,000	59,900	▲ 4,100
			20,000	17,530	▲ 2,470
	補 助 金 収 入			0	0
	助 成 金 収 入		300,000	400,000	100,000
	受 託 金 収 入		17,664,000	17,664,000	0
	雑 収 入		744	51	▲ 693
	前 年 度 繰 越 金		1,491,256	1,491,256	0
	小 計(A)		20,040,000	20,390,737	350,737
支 出	事 業 費	情報収集・提供	3,550,000	2,518,940	1,031,060
		事業活動費	3,400,000	3,300,511	99,489
		交流・共催事業	100,000	74,157	25,843
		キャンペーン活動	0	0	0
		研修	0	0	0
		調査研究	0	0	0
	管 理 費	会議費	550,000	447,956	102,044
		人件費	10,720,000	10,060,210	659,790
		一般事務費	1,720,000	2,101,865	▲ 381,865
	予 備 費		0	0	0
	小 計(B)		20,040,000	18,503,639	1,536,361
収 支 差(A - B)			0	1,887,098	

支出内訳(一般会計)

勘定科目及び金額		17年度 決算額	摘 要
大科目	中科目		
事業費	情報収集・提供	2,518,940	季刊作成・発行 366,303
			月刊掲載漫画原稿謝礼 40,000
			広報業務統括謝礼 840,000
			資料送付等 46,155
			送料(月刊, 季刊) 687,093
			封筒作成 177,187
			インターネット会費・サービス料 57,675
			メールニュース管理 133,330
			参加の手引き印刷 63,420
			ホームページ運営 107,777
	事業活動費	3,300,511	企業活動ワーキンググループ 310,953
			パンフ作成等
			エコツーリズムワーキンググループ 575,602
			HP充実, アンケート実施等
			交通ワーキンググループ 458,316
			パンフ制作等
			エコミュージアムワーキンググループ 380,659
			マップ制作, 会議開催経費等
			食の循環ワーキンググループ 7,455
			会議開催経費
			エコまつりワーキンググループ 786,672
			自然エネルギーワーキンググループ 300,114
			見学会・講演会開催, 会議開催経費
			事務局ワーキンググループ活動経費 230,275
			交通費, 消耗品費等
			エコツアー等事業実施経費 76,610
			パソコン, ソフト購入等 173,855

勘定科目及び金額		17年度 決算額	摘 要
大科目	中科目		
事業費	交流・共催	74,157	サロンdeエコ開催経費 26,422 関係団体等会費 25,420 関係団体事業協賛金等 22,315
	キャンペーン活動	0	
	研修	0	
	調査研究	0	
管理費	会議費	447,956	総会会場使用料 12,300 総会開催経費 203,960 総会議事録作成謝礼 5,555 幹事会会場使用料 4,000 幹事会議事録作成謝礼 38,885 戦略検討委員会会場使用料 14,500 戦略検討委員会議事録作成謝礼 49,999 戦略検討委員会開催経費 118,757
	人件費	10,060,210	賃金 9,352,090 賃金・税金・保険料(一般会計) (8,749,758) 税金・保険料(KE S特別会計) (602,332) 戦略検討委員会コーディネーター経費 708,120
	一般事務費	2,101,865	事務所 電気代相当分 180,000 消耗品 210,829 事務費(電話,コピー料金等) 275,291 税理士報酬 263,445 消費税中間申告 236,100 消費税確定申告 327,300 加算税及び延滞税(法人税及び消費税) 224,000 平成15年度分税(法人税及び消費税) 83,300 平成17年度法人税等 301,600
次年度繰越金			
合 計		18,503,639	

平成17年度収支決算報告書(案)

[寄付金特別会計]

収支計算書

	大 科 目	中 科 目	予算額(C)	決算額(D)	差額(D - C)
収 入	寄 付 金 収 入		50,000	62,800	12,800
	雑 収 入		822	7	▲ 815
	前 年 度 繰 越 金		669,178	669,178	0
	小 計(A)		720,000	731,985	11,985
支 出	事 業 費		0	0	0
	管 理 費		0	0	0
	小 計(B)		0	0	0
収 支 差(A-B)			720,000	731,985	11,985

寄付金特別会計入金内訳

日 程	寄 付 者 等	金 額
H17.4.1	前年度繰越金	669,178
H17.5.31	大西康史	800
H17.7.6	倉田久美子	8,000
H17.7.6	高田光治	27,000
H17.8.4	匿名	4,000
H17.8.15	鴨川を美しくする会	10,000
H17.8.15	銀行利息	4
H17.8.19	西尾利三郎	4,000
H17.8.19	大西康史	1,000
H17.8.24	吉田光太郎	2,000
H17.8.25	古川浩	1,000
H17.8.31	山中工業株式会社	1,000
H17.11.8	内藤正明	4,000
H18.2.13	銀行利息	3
	合 計	731,985

平成17年度 京のアジェンダ21フォーラム 収支決算 (KES認証事業部特別会計)

2006年3月31日

	大科目	中科目	摘要	17年度予算額(税抜き)		17年度決算額(税込み)	
収入	事業収入	審査	審査・登録料	35,020,000		57,127,305	
			ステップ1		@67,000*80 @38,000*250		
			ステップ2		@219,000*40 @114,000*100		
		コンサルタント	コンサルタント料	7,360,000		16,183,401	
			ステップ1		@39,000*90		
			ステップ2		@77,000*50		
		構築講座	受講料	5,000,000	@10,000*500	6,577,674	
	物品販売	印刷物売上	900,000		1,817,162		
	雑収入	その他				19,751	
合計				48,280,000		81,725,293	
支出	事業費	審査	審査謝礼・交通費	22,657,000		33,724,435	
			ステップ1		@52700*80 @27700*250		
			ステップ2		@117400*40 @68200*100		
		コンサルタント	コンサルタント謝礼・交通費	6,548,000		11,057,270	
			ステップ1		@34200*90		
			ステップ2		@69400*50		
		構築講座	講師謝礼・交通費	1,272,000		1,857,786	
			会場使用料		@25000*12		
			配布資料・謝礼・交通費		@54000*18		
		物品製作	印刷物	600,000		2,059,543	
		小計		31,077,000		48,699,034	
	会議費	審査員研修会手当	審査員研修会手当	2,082,000	@180000*6	3,063,845	
			判定委員会謝礼・交通費		@36000*12		
			研修会室料		@25000*6		
			飲食費		@70000*6		
		人件費	事務人件費	9,480,000	@790000*12	10,372,773	
		一般事務費	印刷製本費	5,641,000	@15000*12	12,677,813	
			交通・通信費		@270000*12		
			事務用消耗品・雑費		@60000*12		
			事務所室料		@63000*12		
			雑費		@55083*12		
		小計		17,203,000		26,114,431	
		合計		48,280,000		74,813,465	
当期収支差額				0		6,911,828	
前期繰越金				3,947,415		5,836,603	
次期繰越金				3,947,415		12,748,431	

2005年度 京のアジェンダ21フォーラム・ワーキンググループにおける他機関からの補助等の事業概要について

関係WG	事業内容	事業主体（契約先）	申請事業名（主体）	確定額（円）	備考
エコミュージアムWG	大原野森林公園の森のまると博物館実現を目的に、大原野森林公園のメディアミックス（様々な媒体を組合せた）展示の企画・制作を行った。 公式HP、ガイドマップ作成にあたっては、大原野森林公園運営管理協会がWGに対し実費（336,000円）を支払った。			336,000	
エコまつりWG	市民を中心としたエコまつりサポート体制の確立 リユース食器無料レンタル	NPO法人地域環境デザイン研究所ecotone	平成17年度京エコロジーセンター環境先進モデル調査研究事業	660,000	
環境にやさしい交通体系の創出WG 自転車タスクチーム	自転車利用の可能性と楽しさをより多くの人に知ってもらい、自転車をもっと利用しやすい社会の実現を目指して「全国自転車ネットワーク準備委員会」が「1万人の京都自転車散歩」を実施し、フォーラム交通WG/自転車タスクチームがこれに参画した。（株）シマノ、（有）アキコーポレーション、全日本空輸（株）、（株）モンベル、（株）キャノンデールジャパン が協賛し、パンフレットの印刷、レンタサイクルの輸送、イベントの会場提供等に協力して下さった。			2,260,000	

第3号議案 平成18年度活動方針及び事業計画案について

平成18年度活動方針及び事業計画（案）

平成18年度活動方針

京のアジェンダ21フォーラムは、京都市における持続可能な地域・社会づくりを目標とし、とくに緊急の課題である地球温暖化の防止に焦点をあてている。目標の達成のために、京のアジェンダ21フォーラム・ミッション（以下、フォーラム・ミッション）の実現を目指している。

平成18年度は、昨年度まとめられた『戦略検討委員会報告～フォーラム改革への提案～』を踏まえて、フォーラム・ミッションの実現を目指し、それに必要な機能の整備を進める。そこで、以下の3点を提案する。

1. フォーラム・ミッションの実現に必要な機能の整備を進める。とくに、幹事会、常任幹事会、ワーキンググループ（以下、WG）事務局それぞれの改革を行う。
2. WGを超えて連携する「プロジェクト」を中心に、事業の選択と集中を進める。
3. 活動に積極的に取り組めるような、関係者間の積極的な参加と連携を促す。

フォーラム・ミッション・・・ パートナシップの構築、 事業の創出と育成、 政策の実現と統合、 市民へのアピール

平成18年度事業計画

全体としては以下の1～4にあげる事業を実施する。その中で今年度の主要事業として、「フォーラム改革プラン2006の実行」、「重点プロジェクトの推進」、「地球温暖化防止に向けた市民の行動を促すキャンペーン」を実施する。

平成18年度主要事業

主要事業 「フォーラム改革プラン2006の実行」

主要事業 「重点プロジェクトの推進」

主要事業 「地球温暖化防止に向けた市民の行動を促すキャンペーン」

1. 「フォーラム改革プラン2006」の実行（主要事業）

「京のアジェンダ21フォーラム改革推進プロジェクトチームによる2006年度改革推進方針の提案」より

- （1）組織の改革
- （2）WGの再編
- （3）事務局改革
- （4）広報・情報・交流
- （5）京のアジェンダ21と規約の見直しの検討

２．テーマ別プロジェクトの実施

- ・ フォーラムの目的やミッションに見合ったテーマ別プロジェクトの実施をする。
- ・ プロジェクトの中から今年度の「重点プロジェクト」を選択し、フォーラムの主要事業として推進する(「重点プロジェクト」の選択は企画会議で行う。**主要事業**)。

平成 18 年度プロジェクト候補一覧

() 内はプロジェクトを提案している現 WG¹名だが、実施メンバーは現 WG 以外にも広く参加を呼びかける。

(１) “ K - CSR ” の検討 (企業活動 WG)

京都市内における中小企業の環境保全活動を促進するため、中小企業が取り組める C S R (企業の社会的責任) についての学習会を行い、検討する。学校、地域、地元企業が連携して環境問題に取り組むモデルづくりを目指す。

(２) K E S 認証取得事業所の環境取組事例集の作成 (企業活動 WG)

京都市内における中小企業の環境保全活動を促進するため、K E S 認証取得事業所の環境問題への取組事例集を作成する。独自に「かんきょうレポート」を作成するのが難しい中小企業が、広く市民に取組を P R できる冊子を目指す。

(３) 環境にやさしい修学旅行の提案 (エコツーリズム WG)

京都で環境を大切にしたい旅 (エコツーリズム) を体験してもらうため、全国の学校の先生や生徒に対し、チラシや Web を使って京都での環境にやさしい修学旅行の P R を行う。実際に取り組んでくれるよう、具体的な取組のアドバイス、表彰等を行う。

(４) 旅館・ホテルへの省エネ診断 (エコツーリズム WG)

環境に配慮した宿泊施設が増えるよう、施設のエコロジ化、特に設備の省エネルギー化の支援として、旅館・ホテルに対し省エネ診断を実施する。宿泊施設のエネルギー対応策のモデルケースづくりを目指す。

(５) 公共交通の利用促進を目的とした冊子の発行 (環境にやさしい交通体系の創出 WG)

自動車から公共交通機関への利用転換を進めるために、昨年度より運営中のエコ交通情報サイト内掲示板「京の交通交流ひろば」に蓄積された取材情報を活用するとともに、京都市交通局の協力も得て、京都の市バスの便利さを市民に知ってもらい、市バスの利用促進につなげる冊子『京都の市バス便利ガイド (仮)』を発行する。

(６) 歩行者空間・駐輪場の確保などを含めた都心のまちづくり提案 (環境にやさしい交通体系の創出 WG)

あるいて暮らせるまちづくり推進会議と協働し、商店街と協力した都心の駐輪場の確保や歩行者空間の確保を目指す活動を行う。京都市の「歩いて楽しいまち

¹ 『京のアジェンダ 21 フォーラム改革推進プロジェクトチームによる 2006 年度改革推進方針の提案』を受けて、「パートナーシップ形成の場」としてのワーキンググループと「新たな事業を担う場」としてのプロジェクトに今年度整理予定のため、これまでの WG を「現 WG」として区別した。

なか戦略推進協議会」の検討内容が実現するまで活動を行う。

(7) 木質バイオマス資源活用の検討 (エコミュージアム WG)

京都市内での自然エネルギーの利用促進を目指し、木質バイオマス資源活用の検討を行う。

(8) えこまつり認証制度の検討 (えこまつり WG)

お祭りやイベントにおける環境対策を広めるため、昨年度行った全国のお祭りやイベントにおける環境対策とその実施体制に関する調査結果をもとに、京都市におけるえこまつり認証制度、ガイドラインの構築を検討する。

(9) 自然エネルギーマップの作成 (自然エネルギーWG)

京都における自然エネルギーの普及を目指し、自然エネルギーを導入している事業所等をマップ上にプロットし、Web で公開する。また、実際に地域を散策して自然エネルギー導入施設を訪ねるエコツアーを開催する。

3 . 交流・キャンペーン事業の実施

- ・平成 19 年 2 月を中心に「地球温暖化防止行動キャンペーン(仮称)」として、市民、NPO、企業、行政等と連携して、地球温暖化防止に向けた市民や事業者の行動を促すキャンペーンを実施する。同キャンペーンは、単なる「呼びかけ」に終わらせず、実際の社会の変化につながるような働きかけを目指す。あわせて、同キャンペーンを各主体が取り組む京都における環境保全・温暖化防止対策をアピールする場とする。(**主要事業**)
- ・会員間の情報交換や、活動をアピールすることにより、新たなフォーラムにおける担い手の獲得を念頭に置いた交流事業 (「アジェンダまつり (仮称) 」) 等を開催する。
- ・WG やプロジェクトへの参加を促すための事業 (学習会、サロン等) を実施する。
- ・役員団体等に向けて、地球温暖化防止活動や持続可能なまちづくり活動の実践や支援を呼びかけ、参加を促す。

4 . 情報・広報活動の実施

- ・ニュースレター「季刊あじえんだ」、事務局通信「月刊あじえんだ」、活動紹介のパンフレット類、イベント告知チラシ等の配布や、ホームページやメールニュース等電子媒体を通じて、フォーラム会員に向けて役に立つ情報を提供する。

以上

平成 1 8 年度活動スケジュールは 16 ページ参照

2006年度 事業スケジュール(案)

[illegible]

第4号議案 平成18年度予算案について

平成18年度収支予算(一般会計)(案)

収支計算書

	大 科 目	中 科 目	予算額	決算額	予算額	摘要
収 入	会 費 収 入		500,000	758,000	750,000	
	事 業 収 入	企 画 ・ 催 事	64,000	59,900	60,000	
		物 品 販 売	20,000	17,530	20,000	
	補 助 金 収 入		0	0	0	
	助 成 金 収 入		300,000	400,000	0	
	受 託 金 収 入		17,664,000	17,664,000	17,664,000	
	雑 収 入		744	51	902	
	前 年 度 繰 越 金		1,491,256	1,491,256	1,887,098	
	合 計		20,040,000	20,390,737	20,382,000	
支 出	事 業 費	情報収集・提供	3,550,000	2,518,940	2,700,000	
		事業活動費	3,400,000	3,300,511	2,600,000	
		交流・共催事業	100,000	74,157	400,000	
		キャンペーン活動	0	0	1,000,000	
		研修	0	0	0	
		調査研究	0	0	0	
	管 理 費	会議費	550,000	447,956	355,000	
		人件費	10,720,000	10,060,210	10,720,000	
		一般事務費	1,720,000	2,101,865	1,807,000	
	予 備 費		0	0	800,000	
	次 年 度 繰 越			1,887,098		
	合 計		20,040,000	20,390,737	20,382,000	

2006年度予算案

支出の部

2005年度当初(参考)	2006年度予算案	20,382,000円(合計)
事業費 [情報収集・提供] 3,600,000円 ○ 広報紙発行作業業務謝礼 1,200,000円 ○ 広報紙発行 1,711,000円 季刊発行 印刷 480,000 編集・取材謝礼 320,000 郵送 180,000 月刊発行 郵送 640,000 漫画原稿謝礼 40,000 封筒作成 51,000 ○ インターネット会費 100,000円 ○ メールニュース管理 289,000円 ○ 啓発チラシ等作成 300,000円 [事業活動費] 3,400,000円 ○ ワーキンググループ(WG)活動経費 「かんきょうレポート」作成援助(企業活動WG) 300,000円 旅館ホテルへのエコ化支援(WEB作成等)(エコツーリズムWG) 円 修学旅行生の誘致(エコツーリズムWG) 円 市民への啓発、旅館ホテルへのエコ化支援WEBサイト作成(エコツーリズムWG) 295,000円 旅館ホテル経営者への出前セミナー開催費(エコツーリズムWG) 15,000円 エコ修学旅行、調査資料作成費(エコツーリズムWG) 30,000円 駐輪促進メディアキャンペーン広報、地域との連携(交通WG) 150,000円 エコ交通情報サイトの立ち上げ、情報整理(交通WG) 150,000円 木質バイオマス事業の成果発表会開催等(エコミュージアムWG) 186,000円 リターナブル(リユース)容器システム啓発(えこまつりWG) 100,000円 リユース食器フォーラム開催経費(えこまつりWG) 250,000円 全国のお祭りにおける環境対策・効果調査(えこまつりWG) 180,000円 追加提案事業 1,744,000円 [交流・共催事業] 50,000円 [キャンペーン事業] 0円 [研修費] 0円 [調査研究費] 0円 管理費 [会議費] 200,000円 ○ 会場使用料 50,000円 ○ 総会資料作成 90,000円 ○ 資料送付 60,000円 [人件費] 10,720,000円 ○ 事務局職員賃金 9,500,000円 ○ WGアシスタント、アルバイト経費 1,220,000円 [一般事務費] 900,000円 ○ 事務所電気代相当額 180,000円 ○ 備品・消耗品費 470,000円 ○ 通信費 250,000円 予備費 1,170,000円	事業費 [事業活動費] 2,600,000円 ○ フォーラム改革推進 1,000,000円 ○ プロジェクト開催経費 1,600,000円 [情報収集・提供] 2,700,000円 ○ 季刊発行 印刷 480,000円 編集・取材謝礼 320,000円 郵送 180,000円 ○ 月刊発行 編集・発行作業業務謝礼 700,000円(@7万×10か月) 月刊発行 郵送 590,000円 漫画原稿謝礼 40,000円 封筒作成 51,000円 ○ インターネット会費 50,000円 ○ メールニュース管理 289,000円 [交流・共催事業] 400,000円 ○ アジェンダまつり 300,000円 ○ サロン、発表会、相談会 100,000円 [キャンペーン事業] 1,000,000円 ○ 地球温暖化防止行動キャンペーン 1,000,000円 管理費 [会議費] 355,000円 ○ 会場使用料 130,000円 ○ 総会資料作成 90,000円 ○ 資料送付 60,000円 ○ 交通費 75,000円 [人件費] 10,720,000円 ○ 事務局職員賃金 10,410,000円 ○ WGアシスタント、アルバイト経費 310,000円 [一般事務費] 1,807,000円 ○ 事務所電気代相当額 180,000円 ○ 通信費 400,000円 ○ 消耗品 627,000円 ○ 消費税等 600,000円 予備費 800,000円	

平成18年度収支予算(寄付金特別会計)(案)

収支計算書

	大 科 目	中 科 目	予算額(C)	決算額(D)	予算額	摘要
収 入	寄 付 金 収 入		50,000	62,800	50,000	
	雑 収 入		822	7	15	
	前 年 度 繰 越 金		669,178	669,178	731,985	
	合 計		720,000	731,985	782,000	
支 出	事 業 費		0	0	0	
	管 理 費		0	0	0	
	次 年 度 繰 越 金		720,000	731,982	782,000	
	合 計		720,000	731,982	782,000	

平成18年度 京のアジェンダ21フォーラム 収支予算案 (KES認証事業部特別会計)消費税込み

2006年5月18日

〔収入の部〕

	科目	前残	単価	数量	借方合計	単価	数量	貸方合計	備考(前年実績)	事業費差額
事業収入	審査料					(77,200)	(788)	60,833,000	57,127,305	@55,200/件
	ステップ1	新規審査				58,800	127	7,467,600	(実績116件)	
		確認審査				40,330	380	15,325,400	(実績236件)	
	ステップ2	新規審査				206,850	58	11,997,300	(実績104件)	
		確認審査				116,780	223	26,042,700	(実績105件)	
	コンサル料					(41,055)	(400)	16,422,000	16,183,401	@55,200/件
		ステップ1				31,500	260	8,190,000	(実績190件)	
		ステップ2				58,800	140	8,232,000	(実績103件)	
	構築講座					187,500	24	4,500,000	6,577,674	
	物品販売							1,520,000	1,817,162	
雑収入									19,751	雑収入
	当期収入合計a							83,275,000	81,725,293	
繰越収支差額		12,748,431						12,748,431	5,836,603	
合計	収入合計b							96,023,431	87,561,896	

〔支出の部〕

事業費	審査手当				37,345,140				33,724,435	
	ステップ1	新規審査	47,040	127	5,974,080					
		確認審査	31,734	380	12,058,980					
	ステップ2	新規審査	93,083	58	5,398,790					
		確認審査	62,391	223	13,913,290					
	コンサル手当				12,726,000				11,057,270	
		ステップ1	25,200	260	6,552,000					
		ステップ2	44,100	140	6,174,000					
	構築講座				1,291,200				1,857,786	
	会場費		32,240	12	386,880					
事業費	謝礼・交通費		75,360	12	904,320					
	物品制作費				1,216,000				2,059,543	
	小計				52,578,340				48,699,034	
	会議費				2,544,000				3,063,845	
	判定委員会謝礼		36,000	14	504,000					
	会議飲食費		100,000	6	600,000					
	研修会手当		210,000	6	1,260,000					
	研修会室料		30,000	6	180,000					
	人件費		1,142,000	12	13,704,000				10,372,773	
	一般事務費				14,448,660				12,677,813	
事業費	交通費		320,000	12	3,840,000				3,674,613	
	事務所室料		200,000	12	2,400,000				840,000	
	事務用品費		200,000	12	2,400,000				3,972,963	
	郵送料		100,000	12	1,200,000					
	リース・保守費		70,000	12	840,000					
	通信費		60,000	12	720,000				1,008,566	
	雑費				3,048,660				3,181,671	
	小計				30,696,660				26,114,431	
	当期支出合計c				83,275,000				74,813,465	
	当期収支差額a-c							0	6,911,828	
合計	次期繰越金b-c	12,748,431							12,748,431	

■ ビジョンと主な取組

ライフスタイル WG は、環境にやさしいライフスタイルを普及することを目的としています。その実現に向けて、環境にやさしいライフスタイルをそれぞれの地域で広める仕組みの検討や実践に取り組んでいます。

■ メンバー紹介

WG コーディネーター 袖岡信明氏
活動にあわせて再検討中

■ これまでの歩み

< 1999年度 > ライフスタイルWG 立ち上げ

環境家計簿・グリーンコンシューマーなどの勉強会を開催しました。

< 2001年度 > エコライフ認証制度調査実施

エコライフに取り組む人を応援する仕組みの他地域の事例を調査し、京都での導入検討を行いました。

< 2002年度 >

○ 「コミュニティのアジェンダ 21 推進プラン」をエコセンに提案

エコライフ認証制度調査の結果からまとめた「コミュニティのアジェンダ 21 推進プラン」を京エコロジーセンターに提案しました。

○ 「コミュニティのアジェンダ 21」タスク、「省エネ製品グリーンコンシューマーキャンペーン」タスク活動開始

WG 参加メンバーから家電製品への省エネラベル貼付導入検討の提案があり、「省エネ製品グリーンコンシューマーキャンペーン」タスクを創設しました。あわせて「コミュニティのアジェンダ 21 推進プラン」実施を進める「コミュニティのアジェンダ 21」タスクも立ち上げました。

○ 省エネ製品グリーンコンシューマーキャンペーンの実施

市内 18 店舗でキャンペーンを実施しました。同時にキャンペーン説明を中心に地球温暖化防止についての市民学習会を開催しました。

< 2003年度 >

○ 地域モデル事業の開始

伏見区醍醐を「コミュニティのアジェンダ 21 推進プラン」実施検討のモデル地域とし、専門的環境 N P O と地域グループとの連携で連続学習会を開催しました。

○ 省エネ製品グリーンコンシューマーキャンペーンの実施

府内 169 店舗でキャンペーンを実施しました。市民への学習会も引き続き開催しました。



< 2004年度 >

○地域モデル事業の継続実施

伏見区醍醐地域を引き続きモデル地域とし、取組を継続実施しました。6月に開催された「醍醐環境フェスタ」に実行委員会（代表：伏水サポートネットワーク吉村睦子氏）のメンバーとして参画しました。



○省エネラベル協議会の設立

タスクのメンバー（コーディネーター 伊東真吾氏（㈲ひのでやエコライフ研究所）NPO 法人環境市民、NPO 法人気候ネットワーク、NPO 法人木野環境、京都府地球温暖化防止活動推進センター、NPO 法人コンシューマーズ京都、㈱ジイケイ京都、㈲ひのでやエコライフ研究所、京エコロジーセンター（(財)京都市環境事業協会）、京都市）を中心に、7月に「省エネラベル協議会」を立ち上げ、タスクから活動を移行しました。

< 2005年度 >

○WGの再構築検討

■ ビジョンと主な取組

京都市内における中小企業の環境活動（グリーン・エコノミック・ネットワークづくり）を促進する。

京都発の環境マネジメントシステム「K E S」審査登録制度創設、普及拡大。

環境報告書（「かんきょうレポート」）のひな形の普及活動。

■ メンバー紹介

暫定WGコーディネーター 津村昭夫氏

企業の現役・OBをはじめ学識者、市民・市民団体、行政の関係者等、企業活動と環境影響、グリーン・エコノミック・ネットワーク、中小企業への環境活動支援等に関心をもつメンバーが集まり、自由で独創的な企画について活発な議論を展開している。

■ これまでの歩み

2001年4月：環境マネジメントシステム「K E S」をスタートさせ、2006年4月末現在、全国で審査登録組織は1031件（他団体認証を含む）。

2003年12月：「かんきょうレポート」のひな形を作成、京のアジェンダ21フォーラム・K E S認証事業部ホームページ等に掲載。

2005年度

K E Sの審査登録組織は、2006年3月末現在、京都市内では299件、全国では1000件以上となっています。2005年度、K E S審査登録活動の促進を1つの柱として活動してきた企業活動WGとしては、喜ばしい限りです。

一方、K E Sの審査登録組織で「かんきょうレポート」を作成しているところはまだ数が少なく、環境報告書作成の促進は、今後の課題となっています。

1. K E S 審査登録活動の促進

● K E S P Rパンフレットの作成

環境問題初心者企業の企業や学校、一般市民にK E Sを広めていくため、P Rパンフレットを作成しました。環境マネジメントシステム（K E S）推進セミナーで配布したほか、書店にも置いてもらいました。

● 中小企業向け 環境マネジメントシステム（K E S）推進 セミナーを共催

京都商工会議所、（社）京都工業会、京都府、京都市主催「地球温暖化対策のための中小企業環境マネジメント推進事業」の一環として、中小企業向けの環境マネジメントシステム認証取得推進セミナーが、京都府内で計11回開催されました。フォーラムもこれを共催しました。

2. K E S 審査登録組織の環境報告書作成促進

● 京都環境賞 特別賞（環境レポート）、特別賞（企業）の表彰に協力

事業所の「かんきょうレポート」作成を促し、また多くの事業所に環境問題への取組を広げていくため、企業への応募の呼びかけ、事前選考、賞金の提供等、京都市主催の京都環境賞の表彰に協力しました。



K E S P Rパンフレット

■ KES 参考データ

1. KES 審査登録実績

2006 年 4 月末現在で 1031 件の認証取得。

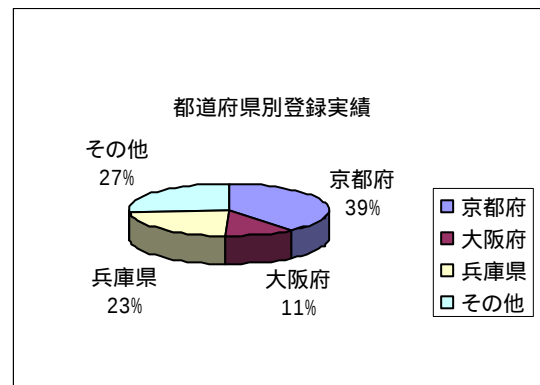
KES・都道府県別審査登録実績 (2006 年 4 月末現在)

都道府県		取得件数	都道府県		取得件数
近畿	滋賀県	32	北陸	富山県	9
	京都府	403		石川県	6
	大阪府	118		福井県	8
	兵庫県	234	東海	岐阜県	1
	奈良県	4		静岡県	0
	和歌山県	1		愛知県	10
北海道	北海道	2		三重県	30
東北	青森県	11	中国	鳥取県	0
	岩手県	6		島根県	1
	宮城県	0		岡山県	1
	秋田県	0		広島県	4
	山形県	0		山口県	0
	福島県	4	四国	徳島県	1
	茨城県	32		香川県	1
	栃木県	3		愛媛県	2
	群馬県	4		高知県	0
関東	埼玉県	6	九州	福岡県	7
	千葉県	5		佐賀県	2
	東京都	52		長崎県	1
	神奈川県	10		熊本県	5
	山梨県	0		大分県	0
信越	長野県	2		宮崎県	1
	新潟県	3		鹿児島県	8
			沖縄	沖縄県	0
			合計	1031	

他団体の認証含む

	件数	%
京都府	403	39
大阪府	118	11
兵庫県	234	23
その他	276	27
合計	1031	100

京都市 306



2. 各地の KES 審査登録機関

2002 年 8 月より「京のアジェンダ 21 フォーラム KES 認証事業部」以外の団体「KES・環境マネジメント・システム・スタンダード」の審査・登録活動が始まりました。

おおつ環境フォーラム（滋賀県大津市） 青森環境マネジメントフォーラム（青森県）
 いわて環境マネジメントフォーラム（岩手県） みえ環境県民運動協議会（三重県）
 日立グループ、 こうべ環境フォーラム（神戸市）
 （NPO 法人）地域活性化 LA21（兵庫県宝塚市） 株式会社環境ソフトウェア研究所（東京都）

3. 環境報告書（かんきょうレポート）

「かんきょうレポート」ひな形は、KES 認証事業部ホームページにて公開しています。

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kesma21f/index.htm>

エコツーリズムWG

■ ビジョンと主な取組

エコツーリズムWGでは、京都における環境調和型観光(エコツーリズム)の実現をめざして、京都の新しいエコロジカルな魅力づくり、観光関連サービスのエコロジ化、観光関連施設のエコロジ化を目標としています。

■ メンバー紹介

WGコーディネーター 十倉真未子氏

WGには、エコツーリズムに関心のある市民をはじめ、エコツアーを実践しているNPOのメンバー、専門家、観光に関わる仕事をされている方など様々な方がご参加くださっています。

■ これまでの歩み

1999年4月に第1回の会合が開かれ、以来、環境に配慮した観光を京都で広めていこうと、月1回開催される運営会議を核にしながら、さまざまなプロジェクトを行ってきました。

観光施設エコ化プロジェクト

- ・ 1999年度～2004年度

宿泊施設の環境問題に関するお客様へのアンケート調査、京都市内の宿泊施設の廃棄物調査、京都市内の宿泊施設の環境対策への取組に関するアンケート調査、グリーン購入ネットワークの「ホテル・旅館」選択ガイドライン策定に参加、協力。

- ・ 2003年度～2004年度

「環境にやさしい旅館・ホテル」試行事業の中で、旅館・ホテルに環境問題への取組をすすめて頂くためのビデオの製作、宿泊客への啓発ツールの作成、提供を行った。また、宿泊客、経営者、従業員向けのアンケート調査の実施分析を行った。

京都エコツアー実践交流プロジェクト

- ・ 2001年12月からパイロット事業として、「京都都市型エコツアープロモート手法実証」を調査。京都・サイクリング・ツアー・プロジェクト(KCTP)の実施したツアーをもとに実証実験を行った。

- ・ 2001年2月より、京都ならではのエコツアープログラムを掘り起こすため、「京都エコツアープログラム」調査を実施、その後エコツアー実践団体の交流会を開催。

普及啓発・学習活動

- ・ 2000年～2001年

「エコツーリズム都市・京都シンポジウム」開催、「エコツーリズム月例セミナー」

(全6回)開催、京都新聞朝刊に「『おこしやす』を考えよう! 観光活性化のためのエコツーリズム」を計12回連載、京都新聞連載をまとめた冊子「エコツーリズム都市京都に向けて」を発行

エコツアー企画

- ・ 1999年～2002年

「エコマップを作ろう」(於 中京区 元梅屋小学校周辺)、「京の町家をたずねて」(於 中京区吉田邸)、「自然100選あじわいエコツアー～森との出会い、森での出会い～」(於 法然院の森)、エコツアー「伏見水紀行」

<2005年度活動報告>

HPの立ち上げ、充実

多くの人たちが環境にやさしい旅を選択するようになり、旅館ホテルが環境問題への取組をすすめるようになるために、HP「京のエコツーリズム」を立ち上げた。これまでのエコツーリズムWGの活動紹介、環境問題に熱心に取り組んでいる旅館ホテルを12件掲載したほか、広報支援を必要とする京都市内でエコツーリズムに関する活動をしている団体19件をHP上で紹介した。

このHPを見た方から問い合わせがあり、HP上で紹介した団体を訪問されるなど、少しずつこのHPがエコツアーの波及に役立ちつつある。

セミナー、シンポジウムの実施

- ・ (出前セミナー 2005.11.9)

旅館ホテルの環境問題への取組をサポートするために、宇多野ユースホステルの従業員に「出前セミナー」を開催した。

他施設での具体的な環境問題への取組事例を紹介し、どうすれば自分たちの職場で取組をより進めていけるかについて意見交換を行った。従業員など 12 名の方々が熱心に耳を傾けてくださり、YHの所長さんからは「各施設の事例を知り、規模は違うが、工夫やヒントを得ることができ、刺激になったと思う」という感想をいただいた。

・(シンポジウム 2006.2.12)

多くの市民にエコツーリズムの考え方について知ってもらうため、平成 17 年度第 3 回環境活動交流会「愛を感じる旅をしよう！」～京都におけるエコツーリズム～(京エコロギーセンター主催)開催に協力した。

50 名の参加があり、参加者アンケートには、「ぜひこのような会を継続して開いてほしい」、「複数の立場から話を深く聞けて大変新鮮で勉強になった」といった共感、応援のほか、企業からの参加者からは「今後の企業の責任を感じ、環境に対する取組を改めて考えていきます」といった意見をいただいた。

また関連企画として企画展示「愛を感じる旅をしよう！」～京都におけるエコツーリズム～(京エコロギーセンター主催)に協力し、市民に向けた普及啓発を行った。

エコツアーの開催

京エコロギーセンターと共催で、まち歩きをした後エコツアーコースづくりを行う「伏見エコ宝さがし講座」を開催した(2005.10.21)。参加者はスタッフを入れて 15 名で、エコツアーの担い手になりたいという希望者はまだまだ少ないが、参加者アンケートからは、内容の濃い議論をすることができ、参加者にエコツアーの楽しさを味わっていただくことができたことが分かった。

エコ修学旅行誘致活動への協力

・(京エコロギーセンターへの協力)

京エコロギーセンターの、環境にやさしい修学旅行の誘致を促すチラシ「修学旅行生のみなさんへ」作成に協力した。作成されたパンフレットは全国約 4,000 校の小・中学校、高校に送付され、問い合わせが数件来ている。

また京エコロギーセンターがHPを作成する際、エコツアーを実践している市民団体やプログラム、KES 認証取得宿泊施設などの基礎情報を、京エコロギーセンターに提供した。

・(先生・生徒へのチラシ配布、アンケート調査)

修学旅行生や先生を対象に、環境にやさしい観光や滞在の仕方と呼びかけるチラシを作成・配布し、アンケート調査を実施した。先生からは、「これまで『環境にやさしい観光』という視点が抜けており、今後指導していきたい」「取組方法を教えてほしい」という回答を多くいただいた。



(↑ 伏見エコ宝さがし 2005.10.21)



(↑ 平成 17 年度第 3 回環境活動交流会
「愛を感じる旅をしよう！」～京都におけるエコツーリズム～
2006.2.12)

■ ビジョンと主な取組

「環境にも人にもやさしい交通体系の創造」をめざして、以下の目標の実現に取り組んでいます。

- ・公共交通の利用促進
鉄道やバスなどの公共交通がすでに整備されている京都市において、これらの公共交通をもっと有効に活用するとともに、さらに使いやすく、市民に愛され、環境負荷の少ない公共交通の導入、整備などをめざしています。
- ・自転車の利用促進
自転車は最もエコロジカルな移動ツールです。コンパクトで平坦な地形を持つ京都市は、自転車の利用に適しています。路上放置や駐輪場の不足、走行空間の不備やマナーの低下などの問題を解決し、自転車を活かせる都市「京都」をめざしています。
- ・自動車交通量の抑制
交通の中で最も環境負荷が深刻な自動車に着目し、温室効果ガスの発生抑制を軸に、自動車に依存しない都市「京都」の実現をめざしています。
- ・交通環境づくり
環境にやさしい交通手段を、安全・快適に利用できるよう、歩行者環境、自転車走行環境および公共交通の利便性の向上をめざしています。特に、京都市都心部での歩行者環境の改善を重視しています。
- ・環境負荷の少ない自動車の普及促進
自動車による環境負荷の抑制のために、自動車そのもののゼロエミッション化の推進と普及をめざしています。

■ メンバー紹介

WGコーディネーター 山田章博氏

- ・自転車が好き！
自転車タスクチームには、自転車を愛用し、自転車環境の問題に強い関心を持つ「愛輪家」が集っています。
- ・電車やバスが好き！
少年の心をそのままに、電車やバスをこよなく愛する人々が、公共交通タスクに集っています。
- ・交通関連の事業者のみなさん
レンタサイクル、タクシー、バスなど、交通サービスの事業に携わる方々が、事業の中での社会への貢献をめざして集まっています。
- ・研究者、デザイナー
交通に関する技術的、社会的な調査や研究をしている人々、交通ツールを含む工業デザインを手がける方々、交通安全施設の整備や開発に関わる方々もいます。
- ・学生さん
環境問題、交通やデザインなどを学ぶ学生さんも多く参加してくれています。交通社会実験などでは強力な実戦部隊となります。

■ これまでの歩み

100 円循環バス応援団（2000 年度）

都心部で休日に運行している 100 円循環バスの導入を促し、利用促進のためのキャンペーンを実施

「歩くまち京都・都心のエコ交通プラン」提案（2001 年度）

都心部を中心に、自動車に依存しない交通環境のイメージをビジュアルに表現して公表

VELOTAXI 運行開始までの協力（2001～2002 年度）

2002 年 5 月に運行を開始した VELOTAXI の立ち上げに協力しました

○臨時駐輪場等の社会実験実施

- ・「まちなかを歩く日」と連動した「まちなか特設有料駐輪場実験」（2001～2002 年度）
路上放置がめだつ都心部に臨時的駐輪場を設けて、放置抑制の効果、利用者の実態と事業性などを調査・検証
- ・「グルッと洛西！」レンタサイクル実験（2002 年度）
嵐山の既存レンタサイクルを市内西部各所で返却できるサービスを実験。京都ウェストサイド物語との協働による
- ・都市型レンタサイクル実験（2002 年度）
環境省委託事業として実施した「エコ交通プロモーション事業」。市内 6 箇所の駅前にレンタサイク

- ルを設置。別の駅で返却できるサービスの有効性などを検証
- ・駐輪ポイントカード「さいくるん」実験（2004 年 11 月）
公営・民間駐輪場で共通ポイントを集める「カード」により、駐輪場の利用促進と、駐輪行動の調査を実施。

「京都の公共交通の未来を創る市民フォーラム」開催、宣言発表（2002 年度）
公共交通のシステム、それぞれの交通モードの問題と可能性、経営とコスト負担など、公共交通の未来と持続性を市民が支えるための議論を連続開催。その成果を「市民宣言」として公表

醍醐コミュニティバス運行開始までと、開始後の利用促進支援（2002 年度～）

醍醐地域の市民とバス事業者が協働で運営するコミュニティバスの企画・立ち上げを支援。2004 年 2 月の運行開始後は利用促進を重点に支援中



○交通に関する情報伝達、啓発

- ・「かたつむり大作戦」でのラジオ放送（2003 年度）
KBS 京都の恒例企画「かたつむり大作戦」で京都市の交通問題を「環境」の観点からアピール
- ・自転車トーク番組の制作・放映などを通じた情報伝達（2003 年度）
自転車をもっと使える京都をめざして、多彩なゲストを迎えてのトーク番組を制作、放映

京都での自転車活用を支援するサイクリングガイドブックの制作などへの協力（2003 年度）

自転車で楽しむ京都の暮らしと遊びのためのガイドブックの企画、取材に協力

エコセン総合学習支援への参加（2003 年度～）

府立洛水高校の総合学習で、自転車をテーマに授業を企画、参加。2004 年度も継続。あわせて 2004 年度は伏見工業高校でも実施。

環境教育ミーティング（2004 年 12 月、京エコロジーセンター）

環境教育に関する交流イベントにおいて、交通をテーマとする環境教育実践セッションを企画・実施。

○交通WGのホームページ制作

- ・「交通WGホームページ」を開設（2005 年度）
ホームページ内に「掲示板」を設置し、交通に関する情報や意見を発信

公共交通市民フォーラムの成果（市民宣言）を受け、その実現をめざして、より具体的な議論の基礎となる「データ」の収集・整理を進め、インターネットを通じて公開するとともに、データ集等の出版を通じて、幅広い情報の共有と議論の喚起をめざします。

都心総合タスクと関連して、東山交通社会実験や嵐山の臨時交通規制を、自転車タスクと関連して、駐車場整備と駐輪場の必要性を扱っています。

そのた主な内容は下記のとおり。

- ・公共交通機関のサービス全般・公共交通関連の交通政策の話題
- ・市バス・市営地下鉄の話題
- ・醍醐コミュニティバス
- ・LRT（新型路面電車）の話題
- ・タクシーの話題

1 万人の自転車散歩の協力（2005 年 11 月）

自転車で京都の街をめぐる「1 万人の自転車散歩」に協力

エコツアー実施（2006 年 2 月）

自転車や公共交通機関で京都のエコスポットをめぐるツアーを実施

府立洛水高校総合学習への支援（2005 年 9 月、10 月）

自転車タスク（山田・辻野）から自転車を活かしたまちづくりをテーマに授業を企画、実施しました

■ビジョンと主な取組

エコミュージアムとは、地域丸ごと博物館の意味であり、地域固有の環境を守り育てていくとともに、地域社会のつながりを大切にしながら地域経済を発展させるための学びの活動です。そこで、当 WG は、長期計画としては、京都市全体をまるごと博物館と見立てたエコミュージアムの実現を目指しています。中期計画としては、大原野森林公園（森）を京都まるごと博物館の 1 つの展示場所と見立てて、森のまるごと博物館を実現します。

■メンバー紹介

WG コーディネーター 笹谷康之氏

メンバーは西山を舞台として活動する自然保護団体の人々、里山に関心のある人々、エコミュージアムに関心のある人々（コンサルタント、研究者、学生など）などが中心です。大原野森林公園の運営管理を受託している地元の大原野森林公園運営管理協会（以下「協会」）の人々や、委託元の京都市建設局緑地管理課と連携しながら、活動を進めています。

■これまでの歩み

< 2000 年度 > エコミュージアムWG 活動開始

先進地での活動の様子を聞き、体験する研究例会を第 1 回から第 8 回まで開催しました。

< 2001 年度 >

第 9 回から第 14 回までの研究例会を開催しました。

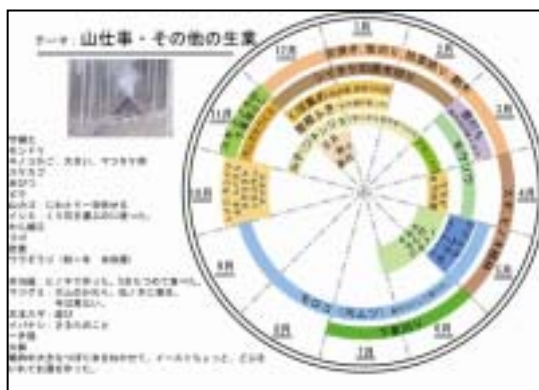
< 2002 年度 >

大原野森林公園（以下「公園」）をエコミュージアムのサテライトと見立てて活動を始めました。

< 2003 年度 >

公園での活動に取り組みました。

1. 地元の人々と「森の案内所（公園内の施設）」の展示物を創るワークショップを兼ねた協会の研修を企画実施しました。
2. 森の案内人（公園内での人と自然の橋渡し役）のメンバーとともに、公園内の獣害状況等の調査をしました。
3. 公園内にある炭窯で、炭焼きとその記録づくりをしました。→
4. 人工シラによる間伐材の集材実験をしました。



< 2004 年度 >

1. 公園のメディアミックス（様々な媒体を組合せた）展示の企画制作をしました。

< 作成物 >

- ・公園の紹介ビデオ
- ・「森の案内所」の展示用 A 1 パネルポスター 10 枚
- ← 展示パネルの内容例

2．木質バイオマス事業の実現性調査を行いました。

多面的な効果が見込まれることから、市民の手で集材して、丸太ボイラーを導入することが望ましいことを示しました。

丸太（ログウッド）ボイラー→



< 2005年度 >

1．公園のメディアミックス（様々な媒体を組合せた）展示の企画・制作をしました。



< 作成物 >

- ・公園の公開用公式 Web サイト
- ・公園の案内用パンフレット

←パンフレット表面

2．公園の地元(協会)に対して、木質バイオマス調査の発表会（協会の運営会議での報告）を実施しました。

3．IT 技術を用いた WG 内のコミュニケーション・システムの整備をはじめました。

- ・森の案内人の日報や公園の植生情報のデータベース化
- ・WG のスケジュール管理

食の循環WG

■ビジョンと主な取組

食の循環ワーキンググループ(WG)は、京都のような都市で住民が参加し、コミュニティを生かした"食の循環"を実現させる仕組みを模索するため、生ごみ堆肥化の地域モデル実験、農家や先進的な取組をしている団体との交流によるネットワークづくりを行ってきました。これを通して、生ごみを見つめ、食への姿勢を再考しています。

■メンバー紹介

WGコーディネーター 筋 祥子氏

食の循環 WG は、京都で長年、消費者問題に取り組んできたあざみ祥子をコーディネーターとして、月に1回のペースで運営会議を開催しています。

食の循環 WG は有志の市民団体、大学研究者などによって構成されています。具体的には、地域の環境グループ「葵エコクラブ」、「京都環境アクションネットワーク」、京都全域で活動する「エコライフ京都」、京都大学や京都府立大学、「KIESS (NPO 法人循環共生社会システム研究室)」の研究者の方々です。

他団体や農家の方とも、学習会や見学会を通じておたがいの意見・情報交流をもっています。そして、それぞれが、今、自分にできることを持ち寄って、活動しています。

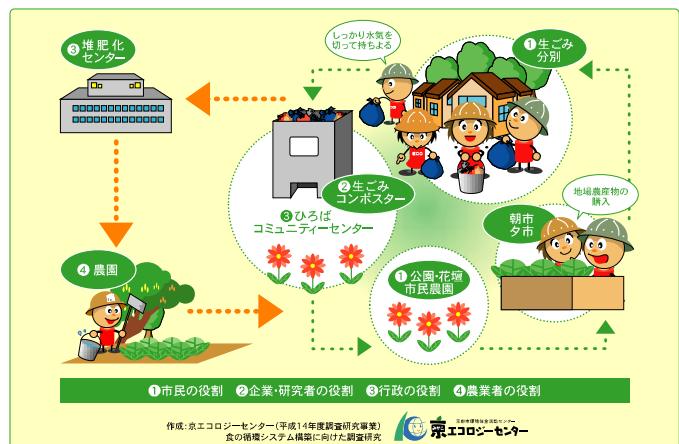
■これまでの歩み

< 2002年度 >

○食の循環 WG 設立

○2002年度京エコロジーセンター調査研究事業に採択

生ごみの堆肥化をコミュニティ単位で実践している先進事例や、生ごみの堆肥化の方法についての調査研究と、市内で生ごみの堆肥化に取り組む団体・グループの現地見学を行いました。



○家庭でできる生ごみ堆肥の作り方の発表交流会実施

京都市内で生ごみ循環に取り組む人、講師ができる人とのつながりをつくりました。

< 2003年度 >

○2003年度京エコロジーセンター社会実験支援事業に採択

小学校区レベルでの地域循環のモデルづくりを目指した社会実験の実施(葵・御室)により、住民の間では事前の学習会などにより分別の理解は得られ、実践されることがわかりました。

○葵地域モデル

葵エコクラブ、京都府立大学、葵小学校が協働して、家庭からの生ごみ回収実験、府立大学の附属農場での葵小学



校環境教育授業、
葵エコ農園の運営、
農作業に



についての葵エコクラブ主催の学習会を行ってきました。

○御室地域モデル



「京都環境アクションネットワーク」
が中心となり、家庭でつくった生ごみ
堆肥を使った地域の寄せ植え教室、御
室小学校での親子ふれあい寄せ植え
教室等を精力的に行ってきました。

○堆肥化の学習会を開催、家庭での堆肥化のマニュアル作成

生ごみの堆肥化の理念や方法を広げるために、様々な堆肥化法を紹介する学習教材の
作成等を行いました。

< 2004年度 >

○政策提言に向けての準備

モデル地域における実験を継続し、平行してモデルの分析・評価を行って提言をまと
める検討をしました。また、農家・事業者との連携をはかり、農業で使える堆肥につい
ての研究会、交流会を行いました。

○生ごみ堆肥化の普及・啓発

昨年度作成した堆肥の作り方教材を使って、ごみを減らす意義や家庭でできる生ごみ
の堆肥化の簡単な方法を体験しながら学習する機会として、新風館でイベントを行いま
した。

昨年行ったモデルの社会実験を分析、評価し、政策提言をまとめる。

< 2005年度 >

○政策提言に向けての準備

モデル地域における実験と現段階でのモデルの分析・評価をまとめた「生ごみ循環は
地域コミュニティでどこまで進んだか?!」= 食の循環ワーキンググループ活動報告書 =
をまとめ、総会等で配布しました。

■ ビジョンと主な取組

京都のお祭り／イベントを環境に配慮したものにする

- ・ 京都市内各所のお祭り／イベントにおける環境対策の支援
- ・ お祭り／イベントの主催者自身による環境対策を促すための情報提供
- ・ お祭り／イベントを通じて環境教育や啓発を行なう事業を展開するための調査や実験を実施

京都市内各所で年間を通じて行なわれているお祭り／イベントにて環境対策を普及させることにより、循環型社会にふさわしいお祭り／イベントの形を社会に提案し、参加市民が非日常から日常へ環境意識や行動をフィードバックすることにより、使い捨て社会に代表される現代のライフスタイルの転換を図る。

■ メンバー紹介

WG コーディネーター 太田航平氏

京都にて多彩な活動に取り組んでいる太田航平をコーディネーターとして、エコまつりWG では月に 1 回のペースで運営会議を開催しています。

エコまつり WG は有志の市民団体、企業、大学研究者などによって構成されています。具体的には、エコまつりの事業化を視野に入れて活動している地域環境デザイン研究所 ecotone、地域住民を巻き込む活動を展開しているユニバーサルユース研究会、エコまつりコンセプトカーの開発において協力関係の京都ラジオカフェ株式会社や株式会社 GK 京都、エコまつりを科学的見地により分析している京都府立大学や京都大学の研究者などです。

■ これまでの歩み

< 2002 年度 >

- エコまつり WG 立ち上げ
- お祭り／イベントでの環境対策の実験

調査の委託を受け、平安神宮にて初詣時に環境対策を行いました。



< 2003 年度 >

- お祭り／イベントでの環境対策の実践

リユースカップと業務用食器洗浄機を用いて、各地のお祭り／イベントにて環境対策を行いました。また、年度末にはエコまつり実践者による交流会を行いました。

- 食器洗浄機搭載車（エコまつりコンセプトカー）の開発
- リターナブル容器システムの環境負荷の定量的評価
- 新型リユースカップの設計、製作
- エコまつり普及マニュアルの作成



< 2004年度 >

○えこまつりのサポート体制の検討

WG 内に、「地域でえこまつりをサポートする人材をいかに養成・調達し、広げていくことができるか」をテーマに絞って調査研究する「えこまつりサポート体制研究会」を設置し、具体的な検討と実践を行いました。

研究会では、地域のえこまつり普及・拡大に協力してくださる方々（地域ごみ減、女性会、生協連など）に「えこまつりサポート体制検討委員」になっていただき、地域でのお祭り／イベントの現状の共有とこれからのサポート体制のあり方について議論しました。また実際に人材養成の一環として「えこまつりサポーター養成講座 Vol.1」と題した市民向けの3回連続講座を開催しました。

えこまつりのサポート体制を地域で構築するためには、コスト面での地域の負担をいかに少なくするかが課題であり、今後も引き続き検討を行っていくことになりました。

○事業化に向けた車両とロゴマークの開発

市民のコスト面での負担を減らすと同時に、システムとして地域に根付かせ、普及を計ることを目的として、食器洗浄機搭載車の開発に取り組みました。同時に、全国で共通に使用できる「リユースマーク」の開発に取り組み、京都からリユースの発信を行う基盤整理を行いました。



WGでの研究結果をもとに、NPO法人地域環境デザイン研究所 ecotone と京都ラジオカフェ（株）が主体となって、前述の車両を使って開発した環境対策支援事業「環境対策支援便 RE-ECO」が2005年4月1日から始まりました。

○全国の実践のネットワーク創出

3月に新潟で開催された「第2回リユース食器フォーラム」で、京都の実践を発表しました。また同フォーラムで、リユース食器の普及・拡大を計っていくための課題の整理と方策について議論しました（<http://www.reuse-network.jp/>）。

< 2005年度 >

○リユース容器の使用を地域に広げるための普及啓発

「えこまつりサポート体制研究会」と京エコロジーセンターの協働事業で、リユース食器の無料貸し出しを実証実験しました。貸し出し実績は9月から2月末までの半年間で82件となり、需要はあったと言えますが、規模を限定したため実際にはお祭り／イベント以外での使用が多数でした。

全国各地でリユース容器の使用を推進する個人、団体が参加する活動報告会「第3回リユース食器フォーラム」を主催し、ノウハウ及び情報の共有を行いました。

○環境配慮型イベント（えこまつり）普及に向けた研究実験

リユース容器システムがもたらす環境負荷削減の定量的評価、お祭り会場でのリユース容器システムがもたらす環境教育効果測定、リユース容器貸出を市民へ行うための体制検討および意識調査、全国各地の環境配慮型イベント（えこまつり）ガイドラインの調査分析を行い、「第3回リユース食器フォーラム」で報告しました。

自然エネルギーWG

■ ビジョンと主な取組

地域における自然エネルギーの普及をいかに進めていくか、をテーマに京都の特長を生かした地域協働型の自然エネルギー普及の仕組づくりを目指しています。そのために、自然エネルギー普及に取り組む地域の関係主体の情報交換、協働のための場づくりをおこなうとともに京都における自然エネルギーの普及・拡大のための仕組みの構築について検討を進めてきました。

■ メンバー紹介

WG コーディネーター 林 敏秋氏

自然エネルギーWG では、全国レベルで地球温暖化防止に取り組む「気候ネットワーク」や、京都で市民参加型の太陽光共同発電所（おひさま発電所）の設置を行ってきた「きょうとグリーンファンド」、そして、早くから自然エネルギー事業に取り組んできた「エコテック」などのメンバーを中心に、これまで京都で自然エネルギーの普及に取り組んできた様々な団体や個人がその活動に参加しています。

また、当 WG では連携を重視しており、KES 認証事業部や京都ライオンズクラブ、その他事業者、全国 of 自然エネルギー普及に取り組む NGO など、さまざまな主体と連携した取り組みを進めています。

■ これまでの歩み

< 2002 年度 >

- 「京都グリーン電力研究会」開催
- 「市民参加型おひさま発電所 設置の手引き」の制作

< 2003 年度 >

- 「地域協働型自然エネルギー普及制度の設計と試行」

< 2004 年度 >

- グリーン電力についての企業向け情報提供ツール「グリーン電力とは」の制作
企業を対象に自然エネルギーやグリーン電力に関する情報提供を行うため、分かり易いパンフレットを作成し、KES 認証取得企業、ISO14001 認証取得企業等に配布した。
- KES 認証事業部、KES 倶楽部との連携
環境改善目標の中に「おひさま発電所の設置」という項目を盛り込むことを提案し、目標に具体性を持たせることができた。また、KES 倶楽部通信（メール通信）を通じた認証取得企業への情報提供を行った。
- パートナーシップ型の自然エネルギー普及事業の提案
京都市との議論、対話を行い、京都市と連携した自然エネルギー普及の仕組みについて検討した。
- 商業施設等との連携

商業施設等での自然エネルギーの導入や普及のための仕組づくりをめざした検討を開始した。その一環として、大手筋商店街へのヒアリングや太陽光発電の見学などを実施した。

- **企業セミナー「はじめよう！環境コミュニケーション～自然エネルギーとCSR(企業の社会的貢献)～」の開催**

CSRに取り組んでいる、またはCSRについて理解のある企業3社との意見交換会を行った。

<2005 年度>

- **企業とのパートナーシップ形成に向けた調査、研究**
- **企業と連携した自然エネルギー普及のシステムづくり**

京都で自然エネルギーを普及させるためには、市民・NPO と企業が連携して取り組む仕組みが必要である。京都に本社がある企業6社を訪問し、企業の環境問題への取組のヒアリング調査、及び当WGが行っている自然エネルギー普及の活動紹介を行った。

また、「企業と市民で広げる自然エネルギー」見学会・講演会を開催した。企業、一般市民を対象に、おひさま発電所のある保育園（あけぼの保育園、春日野園）の見学会および「自然エネルギーが拓く未来」と題する講演会（講師：長谷川公一氏 東北大学大学院文学研究科教授）を開催した。

- **京都市における自然エネルギー普及に関する政策提案**

京都市に対し、太陽光発電をはじめとする自然エネルギー利用の推進のために、既存の個人家庭に加え団体や準公共施設への設置に対する補助を行うこと、効果的な温暖化対策のための収集データの解析・提言、自然エネルギーや省エネルギーに関する各種相談業務、助成制度の運用などを行う「環境エネルギー相談所」を創設すること、等を提案した。



2005/8/2 企業研究会



2006/3/14「企業と市民で広げる自然エネルギー」見学会・講演会

会員アンケート結果報告（概要）

京のアジェンダ 21 フォーラム事務局

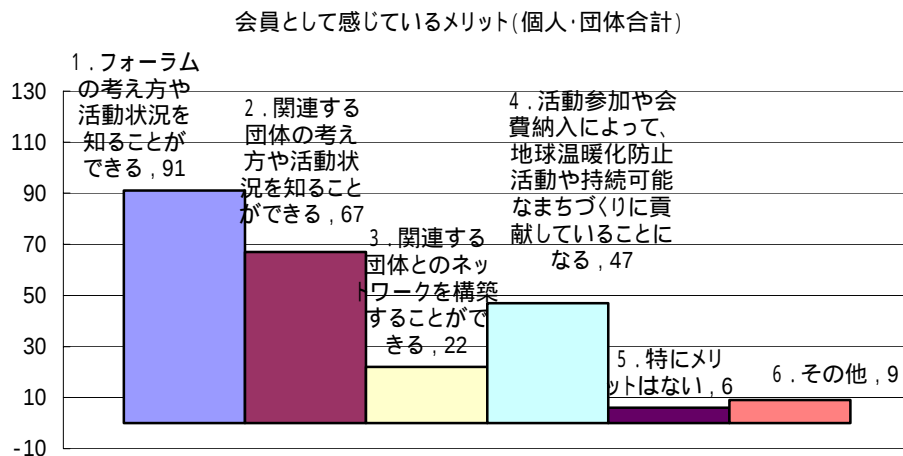
昨年実施した「会員アンケート」では、配布数 482 通のうち、127 通のご回答をいただき、誠にありがとうございました。ご報告が遅れましたが、主な質問項目の結果をお知らせいたします。

調査時期：2005 年 6 月 調査対象：フォーラム会員

有効回答数：127 件（個人会員 60 団体会員 67 不明 1） 回収率：26%

京のアジェンダ 21 フォーラムの会員として感じているメリット（利点）は？ （複数回答可）

- （１） フォーラムの考え方や活動状況を知ることができる
- （２） 関連する団体の考え方や活動状況を知ることができる
- （３） 関連する団体とのネットワークを構築することができる
- （４） 活動参加や会費納入によって、地球温暖化防止活動や持続可能なまちづくりに貢献していることになる
- （５） 特にメリットはない
- （６） その他



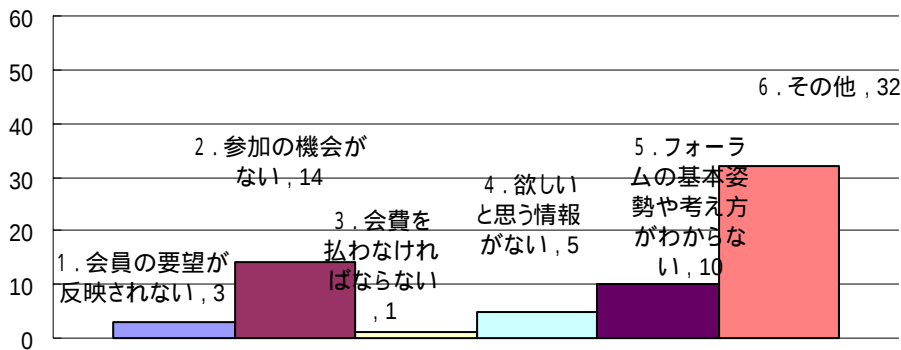
その他の回答：人脈が広がる / KES 普及 / 地域活動活性化に役立つ / 現在、特にメリットを感じなくなっている。以前は、もう少し情報（いろいろな分野、取組の）が多かったように思う / 環境問題に関し、他人への PR、話題性がある 等

団体会員、個人会員とも、「（１）フォーラムの考え方や活動状況を知ることができる」、「（２）関連する団体の考え方や活動状況を知ることができる」という「情報収集できることがメリット」という回答が。これに次いで「（４）活動参加や会費納入によって、地球温暖化防止活動や持続可能なまちづくりに貢献していることになる」の割合が高いことが明らかになりました。

京のアジェンダ 21 フォーラム会員として感じている問題点、不満に思う点は？ （複数回答可）

- (1) 会員の要望が反映されない
- (2) 参加の機会がない
- (3) 会費を払わなければならない
- (4) 欲しいと思う情報がない
- (5) フォーラムの基本姿勢や考え方がわからない
- (6) その他

問題点・不満(個人)

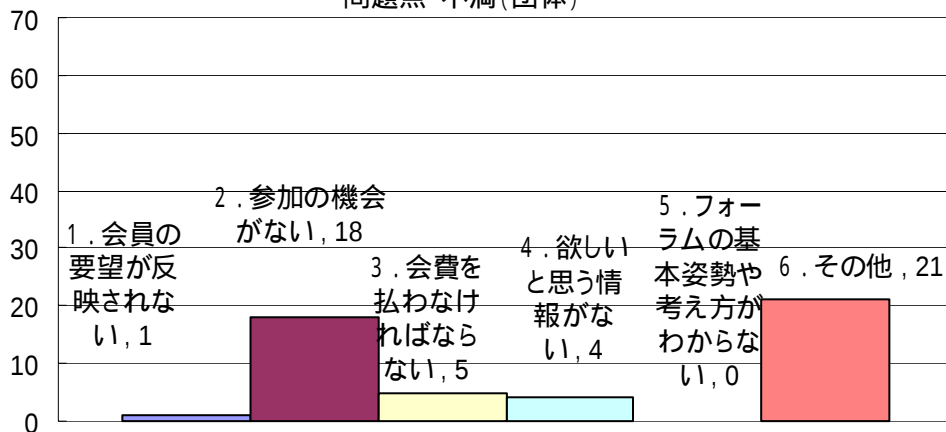


個人会員では「2. 参加の機会がない」(14)が最も多く、「5. フォーラムの基本姿勢や考え方がわからない」(10)が続きます。

その他の主な意見

- 記述なし 10
- 活動に関するもの：参加の機会がない4 / CO2 削減に寄与していない1 / 評価がない1 / 参加を引き出す仕組みがない1 / 的を得ていない1 / 興味の持てるイベントがない1 / 会員同士の意見交流の機会がない1 / 目標の再確認が必要1 / 魅力がない1
- 組織運営に関するもの：活動資金（寄付の受け入れをしてほしい）1 / ・会員数が少ない1
- 広報に関するもの：紙の量が多い1

問題点・不満(団体)



団体会員では「2. 参加の機会がない」(18)が最も多く、「3. 会費を払わなければならない」(5)が続く結果となりました。

その他の主な意見

- 記述なし 5 / 欲しいと思う情報がない1 / サービス業の取組に反映できるアピールが少ない1 / 参加の機会がない1 / パートナリシップ組織のメリットがない1 / 他機関とのネットワークが不十分1

京のアジェンダ 21 フォーラムの情報は主に何で得ていますか？ (複数回答可)

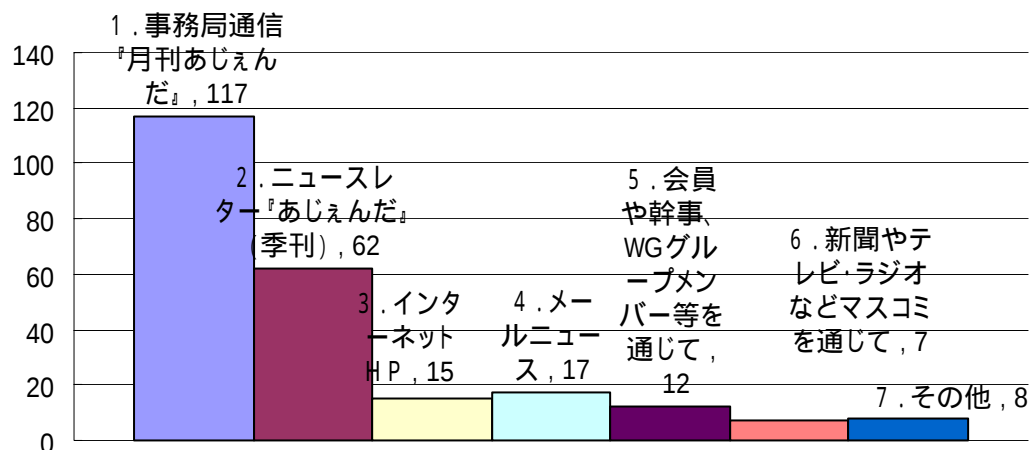
- (1)事務局通信『月刊あじえんだ』
- (2)ニュースレター『あじえんだ』(季刊)
- (3)インターネットホームページ
- (4)メールニュース『週刊あじえんだ』

(5)会員や幹事、ワーキンググループメンバー等を通じて

(6)新聞やテレビ・ラジオなどマスコミを通じて

その他 (KES 倶楽部通信/ NHK/ WG のメーリングリスト/ 他団体/ 幹事会、常任幹事会、コーディネーター会議/ 講演会)

情報源(全体)



情報源は個人会員、団体会員とも『月刊あじえんだ』『季刊あじえんだ』を含めた紙媒体だけで全体の4分の3を占めます。それだけ読まれているということですが、一方で「紙の量が多い」「もっと多くの情報が欲しい」という指摘もあります。またホームページ・メールニュースという回答は少ない結果となりました。

京のアジェンダ 21 フォーラムからの情報に満足していますか？

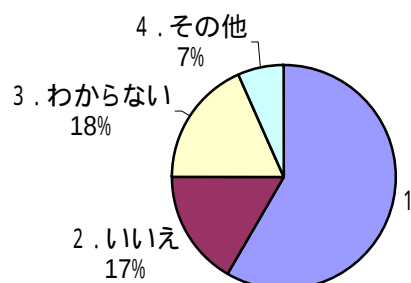
(1)はい

(2)いいえ

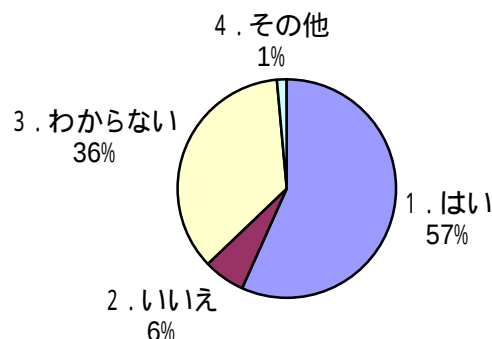
(3)わからない

(4)その他 (もっといろいろな NGO のイベントをもっと発信して/ 郵送をもっと少なくして紙を減らしてほしい/ ニュースの増量を)

情報満足度(個人)



情報満足度(団体)

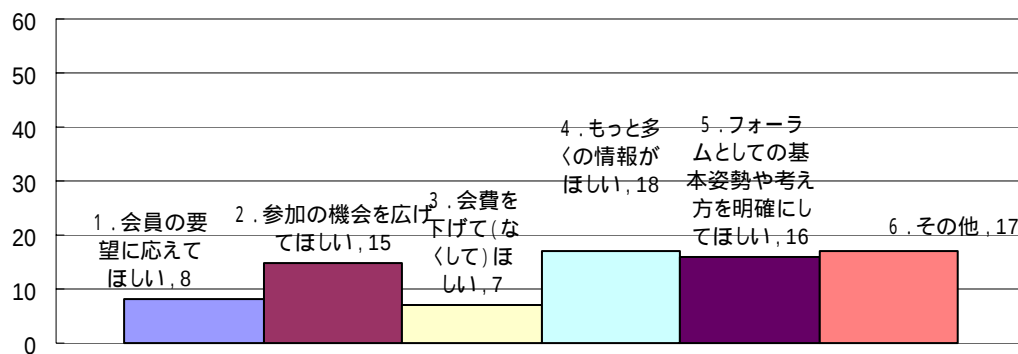


個人会員、団体会員とも、約6割が情報に満足しているという結果が出ていますが、団体会員では、「3. わからない」という回答が36%と比較的多く、団体会員(主に事業者)に有用な情報提供が必要であることが課題となっています。

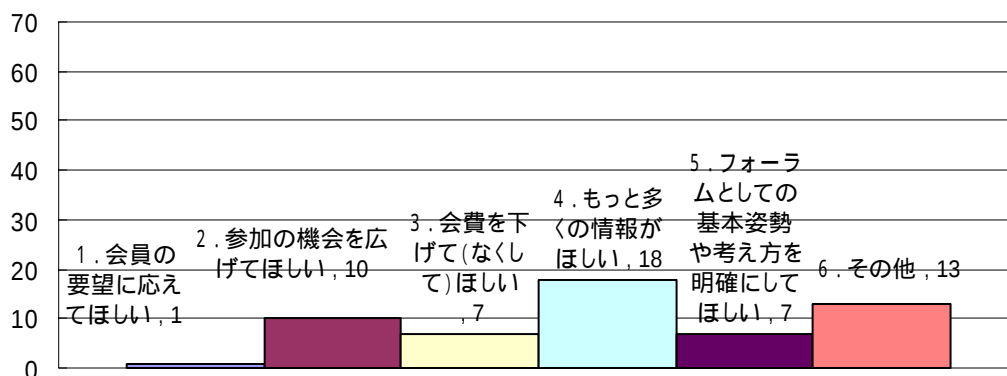
京のアジェンダ 21 フォーラムに望むこと（複数回答可）

- (1)会員の要望に応じてほしい
- (2)参加の機会を広げてほしい
- (3)会費を下げて（なくして）ほしい
- (4)もっと多くの情報がほしい
- (5)フォーラムとしての基本姿勢や考え方を明確にしてほしい
- (6)その他

フォーラムに望むこと(個人)



フォーラムに望むこと(団体)



フォーラムに望むこととして、団体会員、個人会員とも、「4．もっと多くの情報がほしい」が最も多く回答が寄せられました。それに次いで団体会員では「2．参加の機会を広げてほしい」が、個人会員では「5．フォーラムとしての基本姿勢や考え方を明確にしてほしい」が続く結果となりました。

寄せられたアンケートから、事務局では（１）フォーラムの姿勢や考え方及び会員が必要としている情報提供（２）多様な参加の機会（イベント、交流、発言、寄付等）提供が急務であると考えています。

京のアジェンダ 21 フォーラムではこのたび、戦略検討委員会から「京のアジェンダ 21 フォーラム戦略検討委員会報告～フォーラム改革への提案～」が幹事会に提出され、受理されました。今年度は、今後の改革に向けたアクションの１年となりますが、皆様からお寄せいただいたアンケート結果も参考にしながら改革を進めてまいりますので、ご支援・ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

会員アンケート結果の詳細についてはフォーラムホームページよりダウンロードできます（PDF ファイル）。

<http://ma21f.web.infoseek.co.jp/enquet.pdf>